

平成 27 年度第 2 回伊勢市地方創生有識者会議 議事要録

◆日時 平成 27 年 7 月 27 日（月）19：00～20：45

◆会場 伊勢市役所本庁舎 3 階 委員会室

◆出席委員

山本 誠委員、酒徳雅明委員、福村伝史委員、中村基記委員、木村成吾委員、齋藤 平委員、奥出 協委員、吉川真介委員、島田 武委員、勢力 稔委員、本多亮介委員、秋山則子委員、山川一子委員

◆欠席委員

田中秀治委員、松山泰久委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、企画調整課長、同主査、同企画調整係員
情報調査室長、同情報調査係長】

環境生活部【環境生活部長、市民交流課長、市民交流課副参事】

健康福祉部【健康福祉部長、こども課長、健康課長】

危機管理部【危機管理部長】

産業観光部【商工労政課長、同労政係長、観光誘客課長、観光事業課長、農林水産課長】

都市整備部【都市整備部長、都市計画課長、建築住宅課長、交通政策課長】

教育委員会【学校教育課副参事】

◆内容

(1) 委員交代の紹介（富田委員→島田委員）、進行の確認

(2) 資料説明（資料 1、資料 2、参考資料）

■まち・ひと・しごと総合戦略素案について（事務局からの説明）

■伊勢市の産業動向について（情報調査室からの説明）

(3) 意見交換

◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものですので、微妙なニュアンス等が表現されておりませんので、ご了承ください。

- 総合戦略の基本は総合計画ということで、各種事業が取り組みに並ぶが、地方創生を意識した新規の事業は何か。

⇒【事務局】シティプロモーション、移住者への支援、出会い・結婚への支援等ある。

- 出会い・結婚への支援はKPI（重要業績指標）をセンターの利用件数とおいているが、出会っても結婚する気がない人も多い。KPIを結婚件数とするなど考えるべきではないか。

- 県の出会いセンターの利用実績は1000人強で、カップル成立の実績数は19と聞く。行政からの斡旋は安心というメリットがある。市にもできると思う。

- 総合戦略（素案）の文書はよく出来ているが、多方面に広がりすぎている印象がある。今までの事業を検証できているのか。まだやる必要があるのか。新規創業は非常に難しい。県も取り組んでいるが、第2創業（注）の支援も大事なのではないか。廃業する事業所には様々な理由があると思うが、数社は支援により第2創業できると思われる。新規より可能性はある。商工会議所が取り組む経営支援、産業支援を強化すべきである。

伊勢市は県下で総生産額5番目の地域であるが、一人あたり所得額は17位と低迷している。儲けが多くなないと、人も雇えない。何かに重点化した政策を考えるべきである。

（事務局注：中小企業や小規模事業者などが廃業する際に、別の事業主体が事業を引き継いだり、既存事業を基盤に新たな分野に進出すること。）

- 創業する人を増やすこと、また廃業を救うことも大事である。農業が下降気味なのは、稼ぐ力がないのが理由のひとつ。思い切ったことをしないと成果が出ない。

未婚率が高い点について、昔はお節介な人がいたが今はいない。出会いサポートはその代わり。思い切った常識外のことをしないと変わらない。

- 短期的にではなく、もう少し長期的に考えるべきである。個人的見解であるが、第1次総合計画の達成度は約3割である。今の総合計画をいかに達成するかが大事である。やる気だけでなく、本気で取り組んでほしい。

- 地産地消は伊勢市でも取り組むが、伊勢市内だけの消費では限界がある。伊勢の商品の売り先づくりが必要である。

- 平成31年の人口減の数字に危機感を感じている。今回の伊勢市の総合戦略の素案は、国の計画に準じたものと見せてもらった。PDCAサイクルをきちんと実施してもらいたい。

短いスパンのサイクルで、優先順位をつけて事業を実施すべきである。具体的に各分野でワーキンググループを設置して取り組んでほしい。

- 所得を増やすのは大事である。今までを踏まえて産業を育ててほしい。伊勢市は人口の自然増を目指すのか、社会増を目指すのか、どちらなのか。

⇒【事務局】欲張りではあるが、両輪で考える。定住促進や移住促進も進めたい。

- 平成 31 年の人口減の話が出たが、市内の中学校の卒業生が大幅に減ることを示す統計がある（平成 15 年：約 1500 人→平成 36 年約 1000 人）。学校数が減れば、地域の魅力がなくなる。住みよいまちづくりを行い、定住を促進してほしい。
- 多様な学校づくりがあつて良いと思う。どこでも成績重視で切り口が同じである。コミュニティスクール、単位制や農業に特化したカリキュラムなどもあつていいのではないか。
- 「確かな学力の育成」の KPI が授業内容の理解度とあるが、子ども達へのアンケートの結果では外部に向けて説得力がない。「豊かな心・健やかな体の育成」では、サミットが伊勢志摩で開催されるのであるから、サミットを意識した国際教育の強化に取り組めば、その魅力から若い世代の転入に可能性がある。「学習環境の整備・充実」では ICT の導入について触れてはいるものの、具体的取組がない。KPI について、他の市町並みではなく、どれだけ良い指標を目標に掲げるかによって、魅力あるまちを発信できる。
- ハコ（教育用コンピューター）を作っても、使いこなせる人がいないと意味がない。積極的に研修等を受けられるしくみを構築してほしい。
- 県下では土曜授業が開始されている。郷土愛を育む取組を考えてほしい。郷土愛を育めば、子どもたちが地元に残る可能性が高まる。
- 【参考資料 1】で伊勢市の特色ある産業として「宗教」がある。政教分離の関係があるので教育での扱いは難しい。
- サミットでも神宮を参拝されると聞く。宗教としては難しいが、歴史や文化と捉えることで教育での扱いも可能になるのではないか。なお、広島では地元野球球団に関する授業がある。
- 市外へ出て行った人と伊勢をつなぐ方法として、ふるさと納税や同窓会がある。同窓会では出会いも生まれるし、食事会もすれば飲食店の利用が増える。
- 【参考資料 1】11 ページを見ると、圏域で人が動いているのがわかる。スケールメリットを生かした取組も必要なのではないか。
- 観光誘客について、一晩で帰れない人を呼び込むことが大事である。ヨーロッパからの観光客は、1 週間は滞在すると聞く。
- 今回の総合戦略は総花的で、的が絞られていない。優先順位をつけ、何かに特化した計画にしなければいけない。

伊勢市の一人あたりの市町民所得額が 17 位とは驚きである。経済的に安定しないと結婚も消極的になる。空洞化が課題となっている中心市街地に住んだら固定資産税が減税されるなどは極端な話であるが、思い切った政策を考えるべきである。
- 伊勢は恵まれている。南部の他の地域に比べ、危機感がないし、鬼気迫るものがない。

○今後の進め方について

8月末に開催予定の第3回の会議には、数値目標を記載した内容をご提示する予定です。また、ほぼ同時期に議会へ報告し、9月にはパブリックコメントを実施する予定です。議会からの意見、パブリックコメントの意見、そしてこの有識者会議のご意見を踏まえ、10月末に総合戦略を策定する予定です。